

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【性的マイノリティの理解促進】	自分の性自認に悩み、学校を休みがちな生徒（3年女子A子）に対し、性的マイノリティについて全職員及び全生徒による理解促進に努めた。 具体的な取組としては、県から提供された「性的マイノリティへの理解促進に関する動画」の全職員による事前視聴を行い、その後、全校集会にて生徒全員で動画を視聴した。その上で、学年ごとに学年集会を実施し、「いろいろな性があるって当たり前で、どの性もおかしいことではないこと」、「自分の心の性や見た目などをはっきり決める必要はないこと」「アウティングの禁止」等について学習した。
	成果 A子は、自分の心の状態に合わせて、スカートやズボンを選択して着用し、以前よりも登校日数が増えた。職員や周りの生徒たちは、ズボンをはいて登校するA子を特別視することなく、自然に受け入れることができる。否定的なことを言う生徒もいない。
	課題 A子がズボンをはいて登校できるに至るまでには、本人、保護者との綿密な話し合いと職員や生徒の十分な理解、校則の見直し等々、一筋縄ではいかなかったのが現状である。今回の取組を機に、時代に即した前向きな学校づくりにこれからも臨んでいく必要がある。
2 実践2 【SOSを出しやすい環境をつくる相談体制の構築】	オンライン相談窓口の設置 - 定期的に行っているアンケートや教育相談に加えて、生徒が随時、不安や悩みを相談できるようにGoogle Formsを活用したオンライン相談窓口を設置した。 - 相談受付は24時間対応で、相談希望の教員（相談員やS.Cを含む）を選べるようにした。
	成果 1年生の女子から2件の相談（同一人物）があり、担任対応で相談にあたることができた。 12月からのスタートだったため、現在のところそれ以外の相談はきていない。
	課題 - 職員が相談対応を行うため、24時間受付に対して勤務時間内での対応を原則としないといけない。 - 長期休業中などは、家庭と連絡をとる必要があるため、保護者に内緒の相談ができない。 - 学校職員での対応が不可能な時間帯や緊急時のことを踏まえ、「いばらき子どもSNS相談窓口」や「子どもホットライン」の併用を紹介している。